

平成30年度 事業計画書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

《 事業概要 》

近年、交通まちづくりを取り巻く環境は、超高齢社会の到来や自動運転に代表される技術革新などにより加速度的に変化しています。当研究所では、こうした変化に対応するため、「やるべきこと」の取組による大胆な研究成果の発信」を研究所のあり方とした平成30年度から5年間の戦略的な新中期ビジョンを策定しました。平成30年度は、本ビジョンに基づき、政策提言や評価の仕組みを新たに取り入れ、ビジョンを実現するための事業に意欲的に取り組んでいきます。

公益目的事業としては、従来の重点4分野に替えて、「暮らしを支える交通」と「都市空間を創出する交通」を研究の方向性とし、さらに「交通の安全・安心」を最重点課題とした研究領域の区分に改め、引き続き、豊田市、トヨタ自動車及び関係機関との連携を図りつつ、社会的背景や視点・ニーズを的確に捉えた政策提言につながる当研究所ならではの自主研究にチャレンジしていきます。加えて、これらの研究を支える基礎データの更なる蓄積、研究成果を活用した受託事業に取り組むとともに、こうした研究活動・成果を的確に評価、フィードバックすることで研究の更なる充実を図っていきます。また、当研究所の活動、研究成果を様々な機会を捉えて情報発信していくことで、豊田市はもとより、国内外の地方都市で持続的な交通まちづくりに反映されるよう社会貢献していきます。

法人運営としては、経済の穏やかな成長が見込まれるものの、引き続き日銀の金融政策により超低金利の状態が続く中、基本財産運用益を収益の基本とする当研究所の財政運営は厳しい状況が続くものと予測されます。こうしたことから特定資産「交通まちづくり支援資金」の活用を前提に、成長・競争型資金の獲得、受託事業の確保、より一層の経費節減に努めるとともに、さらに長期的な視点に立った財政基盤の見直し検討を進めていきます。

《 公益目的事業 》

1 調査・研究（自主事業11件・受託事業9件＝計20件）

※受託事業は、現段階で想定される事業の件数のみ掲載します。

（1）暮らしを支える交通（自主事業5件・受託事業3件）

超高齢社会を背景とした「暮らしを支える交通」は、自家用車など私的交通と公共的交通サービスの両面からのアプローチが必要です。これまでの研究成果や豊田市への提言をさらに一歩進めることを目指し、5件の研究テーマに取り組めます。

ア 高齢運転者の増加を考慮した安全・安心なモビリティ実現を目指した研究
高齢者の自動車運転による正の効果を評価しつつ、負の影響を踏まえて高齢者の属性及び低下した能力に応じた支援システムを提案します。この

研究は、平成29年度から2箇年度にわたる継続事業の2年目となります。

イ 多様な地域を抱える地方都市における自動運転導入のロードマップ提案

自動運転は、都市交通の様々な課題に対応できる可能性とともに新たな問題を引き起こす可能性があります。そこで地方都市の中でも多様な地域を抱える豊田市を念頭に置き、自動運転導入過程の道標となる自動運転技術活用のロードマップを第三者の立場から整理し、提案します。

ウ 豊田市におけるバス機能を考慮した新たなバス評価指標の提案

豊田市における公共交通評価の仕組みのうち、地域バスについては地域自らが定性的に自己評価する仕組みを提案し、平成28年度から導入されています。今年度は民営路線バスを含めた基幹バスの評価手法を取り上げ次期公共交通評価に反映されることを目指し、バス機能を考慮した新たなバス評価指標を研究し、提案します。

エ 地区内道路の課題に関する基礎研究

主に市町村道であり生活道路として機能している地区内道路は、安全対策をはじめ維持管理のあり方など、様々な課題を抱えています。具体的な課題の抽出には、地区の道路交通実態や問題点を実感している地区住民の参画は必須であることから、住民へのアンケート調査等により、有意な課題抽出に資する研究に取り組みます。

オ 地域バスを対象とした効果的なバス利用促進手法に関する研究

豊田市における地域バスの利用促進は、運行されている地域住民に委ねられていますが、十分な効果が出ているとは言えません。本研究では、地域バスの利用促進施策を地域自らが行う際の支援を目的に、より効果的な方策の検討に関する研究に取り組みます。

(2) 都市空間を創出する交通（自主事業3件・受託事業3件）

中心市街地の再開発、自転車走行空間整備、次世代自動車普及など、豊田市の政策が具現化しつつある中で、新たな課題への対応や政策推進支援に資する成果を目指し、3件の研究テーマに取り組みます。

ア 自転車の走行空間整備過渡期における道路政策のあり方に関する研究

豊田市では平成29年3月に豊田市自転車利用環境整備計画が策定され国のガイドラインに沿った対応が進められています。しかし、整備過渡期である現在は、利用と空間整備のギャップが生じています。この状況の適性化に向け、利用されない自転車走行空間の構造的・心理的原因の探求から、走行空間整備過渡期における道路政策のあり方を明らかにします。

イ 次世代自動車のCO2排出量算定におけるビッグデータの活用に関する検討

次世代自動車の先行的な大幅普及を目指す豊田市の施策支援の観点からこれまでに市の購入補助施策の評価及び次世代自動車普及効果を反映した車種別CO2排出原単位を提案してきました。今年度は、ビッグデータを活用して地域の自動車利用特性を反映した自動車CO2排出量算定方法に

ついて検討し、提案します。

ウ 豊田市都心の課題を人の活動と意識から考える研究

都心のにぎわい創出策を検討する上で重要な情報と言える来訪者の回遊状況は、データ収集が難しく、中心市街地活性化の取組や計画策定の際に十分に考慮されていませんでした。しかし、近年、IoT関連技術の進歩によるデータの収集方法が整いつつあるため、こうした技術の実用性を検証するとともに、得られた情報を用いてにぎわい創出の課題抽出とその対策の検討を行います。

(3) 交通の安全・安心（自主事業3件・受託事業3件）

わが国における交通事故の減少傾向は続き、様々な対策効果が見られているものの、「交通の安全・安心」はなおも最重要課題であると言えます。

特に、高齢者による交通事故の対策は喫緊の課題であることから、高齢者事故対策の視点を中心に3つの研究テーマに取り組みます。

ア 高齢運転者を対象とした後付け型ADASの多様な効果に関する研究

交通安全において高齢運転者の事故対策が喫緊の課題である現在、サポカーの名称でADASの普及促進が取り組まれています。広く浸透するには時間を要すると考えられます。そこで比較的安価に搭載可能な後付け型ADASの効果を多面的に検証するとともに、高齢運転者の搭載を促進するための方策を探ります。

イ 交通安全に係るビッグデータを活用するためのデータプラットフォーム構築の試み

地方都市においては、財政状況の厳しさが増す中で、実施する政策の妥当性判断及び実施した政策の評価を効率的・効果的に行う仕組みが求められています。そのような仕組みの実現に有用な、様々なビッグデータを統合的に管理するデータプラットフォームの構築を試みます。

ウ 豊田市の高齢運転者の事故特徴を踏まえた事故対策に関する提言

交通事故の特性は地域によって異なると言われており、豊田市における高齢運転者事故対策を検討するためには、豊田市固有の特徴を明らかにすることが重要です。そこで豊田市の高齢運転者の事故・違反特性や愛知県の特徴を考慮した事故分析などの先行研究の成果と課題を踏まえ効果的な交通事故対策の検討にかかる知見を探ります。

2 報告会・セミナー

- (1) 国際ワークショップ（平成30年5月25日開催）
- (2) 研究成果報告会・講演会（平成30年7月4日開催）
- (3) 豊田まちと交通勉強会（年11回開催）

3 資料発行

- (1) 機関紙「まちと交通」（年4回発行）

(2) 年報（平成30年6月発行）

(3) その他資料

4 その他

研究企画委員会（年5回開催）

《 法人運営 》

法令、定款等に基づき、評議員会、理事会及び監事会を運営